

2021年度 事業報告書

(2021. 4. 1 ~ 2022. 3. 31)

一般財団法人 少林寺拳法連盟

目 次

各事業報告及び事業内容

1. 少林寺拳法の普及及び指導に関する事業

- 【1】 大学少林寺拳法部連盟本部合宿
- 【2】 大学少林寺拳法部地方開催合宿
- 【3】 中学校保健体育における武道授業推進活動
- 【4】 コーチング指導者育成コース
- 【5】 キッズ国際交流
- 【6】 スポーツ少年団育成母集団研修会
- 【7】 スポーツ少年団育成母集団研修会～キッズペップトーク～

2. 指導者の養成事業

- 【1】 支部長研修会
- 【2】 支部長資格認定研修会
- 【3】 地域社会指導者研修会（日本武道館との共催事業）
- 【4】 全国指導者研修会（全国中高武道授業指導者研修会）
- 【5】 中学校武道授業推進特別研修会
- 【6】 運用法研修会
- 【7】 学生連盟幹部研修会

3. 各種大会、講習会、研修会及び研究会等の開催並びに指導員の派遣に関する事業

- 【1】 少林寺拳法全国大会
- 【2】 全国高等学校少林寺拳法大会
(兼 令和3年度全国高等学校総合体育大会少林寺拳法競技大会)
- 【3】 全国高等学校少林寺拳法選抜大会
- 【4】 全国中学生少林寺拳法大会
- 【5】 少林寺拳法全日本学生大会
- 【6】 全自衛隊少林寺拳法大会
- 【7】 全日本実業団少林寺拳法大会（全日本実業団連盟設立50周年記念）
- 【8】 各種大会
- 【9】 各地区学生少林寺拳法連盟合宿
- 【10】 少林寺拳法オンライン講習会

【11】 少林寺拳法オンライン・ライブ講習会

4. 会員の承認及び会員に対する指導・助言

【1】 理事長研修会

5. 少林寺拳法の技術指導・学科指導、指導技術に関する調査・研究

6. 少林寺拳法に関する機関紙及び図書等の発行

【1】 少林寺拳法普及の機会を広げ、支援・協力者（団体）の増加に向けて

【2】 出版その他

7. 青少年教育関係諸団体及び武道、スポーツ団体との交流

【1】 関係諸団体との連携

【2】 地域社会での協力

8. その他、当法人の目的を達成するために必要な事業

【1】 鏡開き・稽古始め

【2】 宗道臣デー（月間）

【3】 危機管理・安全管理の充実

【4】 日中交流及び国際交流事業

【5】 理事会

【6】 評議員会

【7】 都道府県連盟・各連盟理事長会議

【8】 少林寺拳法の知的財産の保護に関する事業

【9】 事業課活動の拡充

1. 少林寺拳法の普及及び指導に関する事業

【1】大学少林寺拳法部連盟本部合宿【中止】

- 1 期 日 A週 2022年 2月24日(木) ～ 2月26日(土)
B週 2022年 3月 2日(水) ～ 3月 4日(金)
C週 2022年 3月 9日(水) ～ 3月11日(金)
- 2 目 的
- ・コロナ禍において、他大学との交流を含めた修練形式を実施することで、仲間づくり、少林寺拳法の楽しさを伝える。
 - ・少林寺拳法創始目的や在り方の理解を深め、各種技能の向上を通して、生きる力を養い人間力を強化する。
 - ・大学生拳士をプレ社会人と捉え、社会人として必要な見識や人間関係構築能力を育成する。
- 3 対 象 大学少林寺拳法部所属の現役個人会員
18歳以上の個人会員（高校生除く）

【2】大学少林寺拳法部地方開催合宿【中止】

- 1 期 日 期日未定 ※新型コロナウイルスの感染状況により実施の有無を要検討
- 2 目 的
- ・諸事情により本部に來られない学生のために、地方合宿を開催することで、学生の経済負担を減らし、合宿に気軽に参加できるようにする。
 - ・コロナ禍において、他大学との交流を含めた修練形式を実施することで、仲間づくり、少林寺拳法の楽しさを伝える。
 - ・少林寺拳法創始目的や在り方の理解を深め、各種技能の向上を通して、生きる力を養い人間力を強化する。
 - ・大学生拳士をプレ社会人と捉え、社会人として必要な見識や人間関係構築能力を育成する。
- 3 対 象 大学少林寺拳法部所属の個人会員
18歳以上の個人会員（高校生除く）

【3】中学校保健体育における武道授業推進活動

- 1 目 的 日本の未来を担う多感な中学生が少林寺拳法を知り、親しむことで、伝統文化を尊重し、それらを育んできた母国と郷土を愛するとともに他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことや生涯に亘って武道・スポーツを愛好する態度を養う事で、社会が抱える課題解決に向けて寄与できる推進を行う。
- 2 目 標 全国で100校の採択を目指す。(政令指定都市を重点課題とし、1都道府県当たり2校)
- 3 方 法 採択校増加に向けた取り組み
- (1) 地域の武道授業コーディネーターの資質向上とその役割
都道府県推進委員に中学校武道必修化の価値と採択の手順、採択時の運営について理解をいただき、推進を県内に呼びかけていただく。
 - (2) パイプラインの強化
授業実施校、指導者名簿を作成し、各都道府県連盟と情報共有を行い、連盟内でのバックアップ体制を協力依頼する。

(3) 行政等、外部団体との連携

- ・都道府県推進委員が各都道府県、市区町村の教育委員会へ赴き、既存の授業採択武道とともに重複授業申請の働きかけを行う。
また、教育委員会や学校等から要請があった時、採択に向けてのコーディネートが出来るようにする。
- ・スポーツ庁、教育委員会、日本武道館等と密な連携を図り、共催行事を推進していく。

(4) 各行事の開催

- ・授業採択および実施に向けた指導員の発掘・養成。
少林寺拳法未経験の教員を含めた、受講者の授業実施へ向けた指導技術やノウハウの共有、充実を図る。
⇒全国中高武道授業指導者研修会（9月／千葉県勝浦市）や中学校武道授業推進特別研修会（1月）など、特化型の研修会を活用していく。
⇒中学・高校体育授業指導者資格の発行。
⇒授業指導法の共有。解決策の提示。

4 総 括

2020年度よりスタートした武道複数種目扱いにより、二種目として少林寺拳法を取り入れる採択校も出てきてはいるが、伸び悩んでいるのが現状である。

一因としては、認知度の低さ、学校周辺での指導バックアップ体制が整っていないことなどが挙げられる。

また各都道府県連盟に、武道授業推進委員を置いてはいるが、その取り組みに対しては地域により差が出ている。

2021年度目標に掲げていた採択校100校、そのための各種取り組み方法について各種講習会で伝達、共有を図ってはきたが、浸透したとは言い難い結果となっている。

これまで授業内容の充実に重きを置いてきた側面もあるため、いかに採択校を増やしていくのか、各地域での行政、関係各所との関わりを如何に増やしていくのかが説明不足であったと感じる。

2022年度は授業内容充実に加え、採択校増加に向けた取り組みとして、中学校武道授業推進委員とともに各地域行政との関係性を築き上げ、各都道府県連盟に広げていく。

【4】コーチング指導者育成コース

1 目 的

“人づくり”の教育活動であり、“技芸教授業ではない”身心育成の修行法である少林寺拳法において、やる気を引き出し、自己の可能性を信じさせる指導者と会員の関係性は、当然のあるべき姿である。

その関係性をより強く構築する手法として、日本スポーツ協会（以下、JSP0という）の推進するコーチング講習を積極的に推進する。

2021年度より、JSP0の公認講習内容をもとに、当連盟内におけるコーチングスキルの普及を目的に「コーチング指導者育成コース」（以下、コーチングコースという）を設置する。

コーチングスキルは、社員教育や子育ての現場でも必要性が注目されてい

- るものであり、本事業は会員でない方々にも受講を呼びかけた。
- 2 参加人数 ライトコース : 73名
アシストコース : 68名
- 3 総 括 ライトコース（初級）参加者73名中、61名が修了レポート提出、審査の後、公認アンバサダー資格を取得した。
アシストコース（中級）参加者68名中、49名が修了レポート提出、面接審査の後、公認コーチングトレーナー資格を取得した。
計110名の資格取得者のうち、次年度のアシストコースへの申込者24名、プロコースへの申込者21名、ライトコース再受講申し込み者25名、合計70名が継続して学びを深めることとなった。また、2022年度の新規受講者を公募したところ、ライトコースに41名の申込者があった。一年目の参加者は、コーチングの基本をしっかりと習得され、二年目にはコーチングスキルをロールプレイによって、着実に身に付け、各自の周辺において、コーチング力を発揮して活気ある空間づくりに取り組む土台ができた。
ライトコース再受講者は、次年度の新規ライトコース参加者をサポートすることを了承してもらった。後輩は昨年学んだ先輩にサポートしてもらい、先輩は新規参加者の後輩の面倒を見ることで、一層のスキル向上が見込まれる。
初年度は、教材やカリキュラムの構築・製作、指導・審査を一人の講師が行ったため、後半より年度末において日程が立て込むことになったが、二年目は、受講者・講師共に負担がかからない教材や提出物の分散提出、カリキュラムの進捗など改善を行う。
また、次年度よりコースが3コースとなるため、運営スタッフも6名から12名体制に増やして参加者をサポートしてゆく。

【5】キッズ国際交流（オンライン）

- 1 期 日 2021年10月23日（土）
- 2 対 象 一般財団法人少林寺拳法連盟の少年部会員（中学生も可）
- 3 参加人数 10支部150名
- 4 内 容 ・Orange County 支部 Rastogi 支部長の主座による鎮魂行
・技術修練
・ハロウィンパーティー（仮装、お菓子のプレゼント）
・イラストコンテスト
（事前に募集したイラストより優秀作品を選び、表彰した。）
・絵本の読み聞かせ（画面に絵本を映し、日本語・英語での読み聞かせ）
・ゲーム、歌・ダンス
- 5 総 括 「少林寺拳法を通して海外拳士と交流できる機会を作り、英語や世界に興味を持ってもらおう」ことを目的とし、子どもたちに楽しんでもらうことに重点を置き企画した。アメリカ／Orange County 支部の協力により、国内参加9支部をオンラインでつなぎ、総勢10支部150名あまりの子どもたちが国際交流を行った。
各支部の協力のもと子どもたちは楽しめたようだが、次回は、子どもたち

が発言できる場面を増やすなど、より交流の実感が持てるよう企画していきたい。

【6】スポーツ少年団育成母集団研修会

- | | | |
|---|------|--|
| 1 | 期 日 | 2021年9月23日（木・祝）
※保護者の活動時間を考慮し、休日の実施とした |
| 2 | 対 象 | スポーツ少年団支部の育成母集団（保護者）／一般会員 |
| 3 | 参加人数 | 32名 |
| 4 | 内 容 | 各参加者をオンラインでつなぎ、スポーツ少年団育成母集団研修を行う。 <ul style="list-style-type: none">・育成母集団の役割・スポーツ少年団と育成母集団の関わり方・子どもを元気にする発育発達トレーニング・子どもをやる気にさせる魔法の言葉 |
| 5 | 総 括 | 本研修会では、小中学生を指導、又は支援する指導者や保護者を中心に、現代社会における子ども達への指導法について考えるきっかけづくりの場を提供した。
まず初めに、生活様式の変化により、子どもたちの体の発育発達に支障をきたしていることに対する事例紹介とその改善方法を紹介した。
次に、子どもの元気・やる気を出す方法について、指導者・育成者の心構えや言葉がけのポイントを紹介した。
部内外約30名の参加者は、これまでの指導の常識を見直すきっかけとなった旨の感想があった。 |

【7】スポーツ少年団育成母集団研修会～キッズペップトーク～

- | | | |
|---|------|---|
| 1 | 期 日 | 2021年10月17日（日）
※保護者の活動時間を考慮し、休日の実施とした |
| 2 | 対 象 | スポーツ少年団支部の育成母集団（保護者）／一般会員 |
| 3 | 参加人数 | 25名 |
| 4 | 内 容 | 各参加者をオンラインでつなぎ、スポーツ少年団育成母集団研修を行う。 <ul style="list-style-type: none">・子どもに元気、やる気になってもらうコーチング・子どもに自己肯定感を持って、可能性を発揮してもらうペップトーク |
| 5 | 総 括 | 先進諸国の中で、日本の若者は自己肯定感が一番低いと言われており、これは言い換えると自分の可能性を信じる生き方をしていないことを意味する状況である。そこで、子ども達にどのようにしたら自分の可能性を信じ、主体的に物事に取り組めるかについて考えてもらった。
子ども達を変えるには、指導・育成者が、子ども達の可能性を信じること、並びに、心理学を活用したコーチングやペップトークを活用するアプローチ方法などを紹介した。
結果、参加者からは家庭や学校、道場などで活用したいという感想が寄せられた。
次年度は、参加者より参加の動機や学びたいことを事前に伺い、参加者の希望に沿った内容を企画し、各種指導・対処法を紹介したい。 |

2. 指導者の養成事業

【1】支部長研修会【※集合型研修は中止】

- 1 期 日 上半期は在宅研修とし、下半期より集合型の研修会を実施する
2021年11月14日（日） 東日本
2022年 2月 6日（日） 中日本
2022年 3月 6日（日） 西日本
- 2 目 的 スポーツ少年団、学校（中学、高校、大学）、実業団など各域を超えて所属長が集うことで、少林寺拳法の在り方（基本認識、教え、技術等）を伝え、全員が共通認識を持ってもらうことを狙いとする。また新型コロナウイルス感染症拡大に伴い生まれた新しい価値観の基での支部運営、指導者に求められる資質や魅力発信について議論を含め双方に学んでいただく。また、指導にあたって指導すべき安全管理・保険加入・体罰・ハラスメントの撲滅の徹底を図る。
- 3 対 象 本部役員、支部長
※所属長からの申し出があれば、幹部拳士の参加も認める。
- 4 内 容 (1) 会長講話
(2) 一財連盟の活動方針について
・2021年度の重点課題について
・要望、意見に対する取り組みについて
(3) コロナ禍で生まれた新しい価値観の基での支部運営、指導者に求められる取り組みについて
(4) 各域に分かれた特化内容
・指導法の確認（技術、教え、コーチング）
・支部の魅力発信
・安全管理
(5) その他
- 5 総 括 集合型研修は中止とし、2020年度と同様にオンラインでの在宅学習とした。
昨年度を経験していたこともあり、資料については昨年度のものをバージョンアップさせ、講義ならびに技術映像も配信したことで、在宅においても細かな伝達が出来たのではないかと考える。
また、支部長研修会は受講義務となっているため、在宅学習においても受講を促すためにレポート提出を義務とし、その旨を複数回周知したことで昨年度より受講率は向上したと思われる。
未提出の支部長については、提出期限が過ぎても提出を促していく。

【2】支部長資格認定研修会

- 1 期 日 2021年 5月15日（土） ～ 5月16日（日）本部
2022年 1月15日（土） ～ 1月16日（日）本部
- 2 目 的 支部長の使命と課題を明確にし、一財連盟の支部運営に必要な知識及び少林寺拳法の指導法と学生指導の指導技術の向上を目指した内容の研修により、支部の増加と活気ある部活づくりを目指す。

		以て、多くの拳士を惹きつけ続ける指導者像を掴む機会とする。 支部・少林寺拳法部の設立・交代希望者、副支部長・コーチで希望者
3	対 象	
4	内 容	(1) 会長講話 (2) 指導者の使命、心構え、姿勢の確認 (3) 技術と技術指導の研修 (4) 指導技術の向上計画の確認 (5) 振興普及、安全管理、体罰・ハラスメントの研修 (6) 支部運営上の諸手続と具体的方法の確認 (7) 面接審査 (8) 技術審査 (9) 討議審査 (10) 各種規則・規程及び制度 コロナ禍の状況に応じて、2020年度と同様に研修は自宅にて自学自習することも可とするところもある。 なお、2020年度受講者で準認定を付与された方に対しては、本研修会を含め、各種研修会において該当者の面接・技術などの審査を行うものとする。
5	参加人数	2021年5月度 17名 2022年1月度 20名
6	総 括	2021年5月度は新型コロナウイルス感染症状況に鑑み、オンラインでの開催となった。2020年度は準認定としてレポート審査を行ったが、今回はレポート審査だけでなく、オンラインでの面接審査を行った。 2022年1月度は集合型で実施した。感染症対策の為、受講者同士の積極的な交流以外は例年通りの開催形態であった。 双方ともに初めての試みを実施しながら、コロナ禍で実施可能な研修形態を明確にすることが出来た。

【3】地域社会指導者研修会（日本武道館との共催事業）

1	期日・場所	申請による
2	目 的	都道府県連盟・各連盟（申請者）の活性化に向けて、研修会を通じて課題の解消を図る。課題の設定は、技術研鑽・指導法研究・活性化研究など、申請者による。
3	主 催	公益財団法人日本武道館・都道府県連盟・各連盟
4	内 容	申請者の課題に対応した指導員派遣・プログラム設計を行う。
5	経 費	開催にかかる費用は日本武道館が負担する
6	実施実績	開催⇒7道県（茨城県、長野県、北海道、埼玉県、兵庫県、山梨県、福岡県） 中止⇒18県（沖縄県、岩手県、大分県、栃木県、福井県、鹿児島県、静岡県、熊本県、宮崎県、奈良県、宮城県、石川県、長崎県、群馬県、広島県、福島県、愛知県、新潟県） 2021年度より開催予定連盟に事前アンケートを実施し、研修内容の希望（技術、講義、その他）をヒアリングした上で、派遣講師を選任した。事前アンケートを実施することで、開催地の状況や課題、目標などを汲み取ることができ、目的に応じることができたのではないかと思います。この事前アンケートについては、2022年度も引き続き継続していく。

その他、2021年度もコロナ禍の影響により開催中止が半数を超えたのはやむを得ないことであった。

【4】全国指導者研修会（全国中高武道授業指導者研修会）

【集合型研修は中止しオンラインで実施】

- | | | |
|---|-------|--|
| 1 | 期 日 | 2021年 9月19日（日） |
| 2 | 目 的 | ・授業指導者の発掘、育成（拳士以外の指導者も含む）
・中高授業の指導スキル習得
・中学校武道授業の価値、役割について理解する |
| 3 | 主 催 | 公益財団法人日本武道館・一般財団法人少林寺拳法連盟 |
| 4 | 対 象 | （1）中学校及び高等学校の保健体育教員
（2）外部指導者またはその候補にあたる者
（3）都道府県連盟の推進委員または中学武道授業を推進していただける方
（4）少林寺拳法未経験の教員
（5）教員志望の大学生 |
| 5 | 内 容 | （1）各種講義
（2）講義実技
（3）講義討議
（4）演習
（5）その他 |
| 6 | そ の 他 | ・授業における少林寺拳法の価値と文部科学省、日本武道館の考え方について理解する。
・指導者の現状に向き合った、指導者養成
・年齢制限なし |
| 7 | 参加人数 | 42名 |
| 8 | 総 括 | 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、集合型を中止し、9月19日（日）一日のみオンラインでの開催となった。
各地から講師がオンライン発信をする形態となったが、質疑応答時間やチャット機能を用いた質疑応答など、単に映像を見るだけの受け身にならないよう工夫を凝らした。
但し、受講者同士のグループワークや情報交換など、オンライン及びプログラムの都合上、実施できず不十分なところもあったため、次回以降、引き続きオンラインを実施する際には、更なる工夫を盛り込んでいく。
また当法人会員以外の参加者が少なかったため、本研修会の周知及び参加の呼びかけを、各連盟、また各地にいる武道授業コーディネーターを通して広げていきたい。 |

【5】中学校武道授業推進特別研修会【集合型研修は中止しオンラインで実施】

- | | | |
|---|-----|---|
| 1 | 期 日 | 2022年 1月29日（土） |
| 2 | 目 的 | ・具体的実践例や授業化実現のノウハウ等を発表・情報共有を通じて、地域ごとの課題発見やアクションプランを作成する。
・各都道府県の武道授業推進委員等が各地の教育委員会や学校に積極的広報ができるように研修を行い、武道授業コーディネーターを養成する。 |
| 3 | 主 催 | 一般財団法人少林寺拳法連盟
（スポーツ庁／武道等指導充実・資質向上支援事業） |
| 4 | 対 象 | 都道府県連盟の武道授業推進委員またはその代理 |

5 内 容	(1) 講義 (2) 講義実技 (3) 講演 (4) 講義討議 (5) その他
6 そ の 他	・ 中学校武道授業の価値や役割や地域社会にどう役立てるのかを理解する。 ・ 少林寺拳法で行う武道授業について説明、PR等ができる授業コーディネーター（指導者）を養成する。
7 参加人数	31名
8 総 括	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、集合型を中止し、1月29日（日）午後半日のみオンラインでの開催となった。 短時間に効率よくまとめた内容となったが、上記【4】全国指導者研修会と同様に、受講者同士の情報交換を含めた横の交流が持てなかったため、次回以降、上記の件について検討していく。 武道授業コーディネーターについても地域により認識の相違が感じられるため、均一化は難しいとしても、全体的なレベルアップにつなげていく。 加えて、採択までの具体的な流れ、方法を示していく。

【6】運用法研修会【中止】

1 期 日	2021年 4月 ～ 2022年 3月
2 目 的	・ 地方において、剛法運用法の研修会を実施する。 ⇒都道府県大会において運用法が安全に実施できるようにする。 理由：大会において運用法を実施していない都道府県連盟が多く、 全国大会の運用法参加者が限られた県となっているため、普及 促進を図り、より多くの拳士が出場できるようにする。

【7】学生連盟幹部研修会

1 期 日	2021年12月21日（火）～2021年12月23日（木）
2 場 所	連盟本部
3 目 的	・ 学生連盟における活動の総括 ・ 次期幹部への引継ぎ ・ 全地区学生連盟の連携強化
4 内 容	(1) 少林寺拳法についての再確認 (2) 学生連盟の歴史 (3) 大会のあり方とその準備 (4) 会計と各種手続きについて (5) 全地区でのミーティングおよび交流
5 参加人数	18名
6 総 括	少林寺拳法や学生連盟の活動を通じて何を学べるか、どのような可能性があるかを再確認した。また、学生連盟が主体となって開催する大会などにおいて、実行委員会の各セクション間の連携の大切さや、事前準備の内容などの確認を行った。

3. 各種大会、講習会、研修会及び研究会等の開催

並びに指導員の派遣に関する事業

【1】少林寺拳法全国大会【中止】

- 1 期 日 2021年10月10日（日）
- 2 場 所 東京都（日本武道館）
- 3 目 的 各都道府県代表の会員が、日頃の修練の成果を論文、演武にて発表し、共に学び合う。
大会に集う全ての拳士が自身の修練の原点、目標を明確にし、今後の修練の糧とする。
- 4 方 針 コロナ禍での開催になるため、実施種目を限定して行い、且つ、密を避けるため、観客人数の制限を設けるなど、大会全体に感染症対策を施す。
通例、都道府県大会が全国大会の予選を兼ねて実施されているが、コロナ禍により、開催準備が困難な地区も出てくると思われるため、通例の大会にとらわれない「選考会」として実施することを提唱する。
大会予算については、できるだけ各所に負担を掛けないように働きかけ、式典の簡素化や華美な設営等を控えるなど、節減を行う。
- 5 主 催 一般財団法人少林寺拳法連盟
- 6 主 管 東京都少林寺拳法連盟
- 7 対 象 一般財団法人少林寺拳法連盟の現役個人会員

【2】全国高等学校少林寺拳法大会

（兼 令和3年度全国高等学校総合体育大会少林寺拳法競技大会）

- 1 期 日 2021年 7月29日（木） ～ 8月 1日（日）
- 2 場 所 長野県立武道館（長野県佐久市）
- 3 目 的 全国の高等学校における少林寺拳法部間の親睦交流と、技術の向上をはかり、少林寺拳法の正しい姿を一般に公開して、高校生として健全な精神と肉体を育成する。
- 4 主 催 一般財団法人少林寺拳法連盟、公益財団法人全国高等学校体育連盟
- 5 対 象 一般財団法人少林寺拳法連盟の現役個人会員（高校生）
- 6 参加人数 43都道府県 157校 647名
- 7 総 括 2年振りに開催となった本大会においては、少林寺拳法だけではなくインターハイ全種目が（公財）全国高等学校体育連盟が策定した新型コロナウイルス感染症拡大防止に関する基本方針に則り、無観客での実施となった。例年とは異なる大会の様子であったが、大会に起因する新型コロナウイルス感染症の罹患者も出ず、成功裡に終わった。この感染対策は他大会においても重要な指針となるため、対応可能なものについては取り入れを検討していく。

【3】全国高等学校少林寺拳法選抜大会

- 1 期 日 2022年 3月25日（金） ～ 3月27日（日）
- 2 場 所 香川県（善通寺市民体育館）
- 3 目 的 個人会員（高校生）が、日頃の修練の成果を弁論、演武にて発表し共に学び合う。また、技術講習を通して技術の向上はもとより、全国の拳士との

横の繋がりを実感し、少林寺拳法の魅力を再確認する。

- 4 方針 本大会では、コロナ禍で変則的な大会形態が続いた2年間を受けて、「高校生拳士に大会の基本状態を経験をしてもらう」という目標を掲げ、実行委員会発足当初から、様々な可能性を模索して開催へ動き出し、感染防止対策の徹底はもとより、できる限るコロナ禍前と同じ日程に近づけて組むこととした。
- 5 主催 一般財団法人少林寺拳法連盟
- 6 共催 公益財団法人全国高等学校体育連盟
- 7 主管 全国高等学校体育連盟少林寺拳法専門部
香川県高等学校体育連盟少林寺拳法専門部
- 8 対象 一般財団法人少林寺拳法連盟の現役個人会員（高校生）
- 9 参加人数 41都道府県 195校 834名
- 10 総括 コロナ禍にあつて昨年度からの大きな成果は、1会場で開催ができたということである。昨年度大会では、競技における密を避けるために予選は2会場で午前と午後の4グループの分散開催とし、入場制限をした。
2会場での予選競技とすることにより、密を防止することができたが、多くの観客や選手同士の観覧は行えず、決勝競技の際には、進出者のみが来場可としていた。
香川県においては『まん延防止等重点措置』が1月中旬から発令され、開催日1カ月前の2月には、発令期間が延長されることになった。（当時香川県内での実施期間：2022年1月21日～3月21日）これに伴い、感染症対策も更に厳重なものとするべく、通常の演武において行われる「有声の気合」を禁止し、「無声の気合のみ」とする等、開催日直前まで厳重な対策を施して開催日を迎えた。
当日は大きなトラブルも無く、無事に終了することができた。感染症対策については、この経験を積み重ねより強固なものにしていきたい。

【4】全国中学生少林寺拳法大会【中止】

- 1 期 日 2021年 8月13日（金） ～ 8月15日（日）
- 2 場 所 福岡県（久留米総合スポーツセンター 久留米アリーナ）
- 3 目的 個人会員（中学生）が、日頃の修練の成果を論文、演武にて発表し共に学び合う。また、技術講習を通して技術の確認はもとより、全国の拳士との横の繋がりを実感し、少林寺拳法の魅力を発見する。
- 4 方針 コロナ禍での開催になるので、参加者や開催地に安心・安全を提供できるよう感染症対策に注力する。
- 5 主催 一般財団法人少林寺拳法連盟、全国中学校少林寺拳法連盟
- 6 対象 一般財団法人少林寺拳法連盟の現役個人会員（中学生）
- 7 総括 2021年3月度の全国高校選抜大会のノウハウを基に、“感染症拡大防止等に関する基本方針”を策定することができた。全国中学校連盟、主管連盟ともに、感染拡大防止策に関する意識および感度が高く、タイムリーな情報共有と柔軟な対応を行うことができた。（直前の緊急事態宣言発令に対しても入念な対応ができた）
しかし、開催日直前の荒天に対しては事前の危機管理体制の未整理、また、

8月5日より「福岡コロナ特別警報」が発令されており、荒天の中での密回避が難しく、参加者の安全を確保できないことにより、結果として参加者が開催地入りの中で大会中止の決断をすることとなってしまった。

今後の全国規模の大会については、大会開催による影響を俯瞰して判断する危機管理機関を、主催者の中に設置することとする。

具体的には、大会開催日の2週間前・7日前・5日前・2日前に、大会事務局より危機管理機関に対して、危機管理上の懸念の有無を確認する。

危機発生時の開催の判断については、

①警鐘発信…危機管理機関の発信に基づき、対策を講じる。

②態度決定…主催者＝一般財団法人 少林寺拳法連盟と、主管＝実行委員会との連絡調整に基づき、危機対応の態度決定を行う。

③意思決定…主催者＝一般財団法人 少林寺拳法連盟の判断とし、決議は理事会（オンライン会議も可）にて行う。

④決定内容は速やかに、[各連盟理事長][全所属長][出場選手]に周知する。

【代替大会】

令和3年度全国中学生少林寺拳法インターネット大会

1 期 日	2021年10月31日・11月3日（審査）、12月5日（審査結果発表）
2 審査会場	東京別院、連盟本部
3 内 容	・単独演武の部（男女） ・組演武の部（男女） ・団体演武の部（男女）
4 主 催	一般財団法人 少林寺拳法連盟
5 主 管	全国中学校少林寺拳法連盟
6 協 力	公益財団法人 全国高等学校体育連盟少林寺拳法専門部
7 対 象	第15回全国中学生少林寺拳法大会の出場資格を有した中学生拳士
8 参加人数	のべ539名
9 総 括	密（移動含む）を避けるため2会場に分かれて実施し、全国高体連専門部公認審判員、本部審判員の協力のもと、通常の大会と変わらず厳正な審査を行った。一定基準を満たした出場者を「優秀賞」「優良賞」として表彰した。

【5】少林寺拳法全日本学生大会

1 期 日	2021年11月 7日（日）
2 場 所	日本武道館
3 目 的	学生会員が日頃の少林寺拳法の修練の成果を発表し、共に学びあう。
4 主 催	全日本学生少林寺拳法連盟
5 対 象	大学少林寺拳法部所属の現役個人会員
6 P R（集客）	会報、公式ウェブサイト、Facebookなどの広報媒体での案内
7 そ の 他	・感染症対策を実施する。 ・一財連盟の関わる事業として以下を支援する。 （1）大学生拳士の活性化

- (2) 全国の仲間づくりの場
 (3) 将来の夢、希望を与える
 (4) 卒業後の少林寺拳法継続
- 8 参加人数 69校 706名
- 9 総括 「再興」をテーマに、昨年に続き、新型コロナウイルス感染症対策を徹底した「ウィズコロナ」の時代に対応し、午前・午後で拳士を入れ替える2部制、無観客無来賓での開催となった。各地区での予選会が困難であったため、立合評価法は実施せず、団体演武は映像による事前審査、当日は、単独演武、組演武、三人掛の3部門のみで計23種目とした。昨年より通常時に近づいた部分として、審判は予選3人制・本選5人制を採用し、順位づけすることが可能となった。
- 入場口には体温測定器を設置し、手指消毒を実施した。有声の気合が禁止される中、道衣の擦れ・床への衝撃音などが響き、それぞれの真剣な演武が披露された。大会の様子は、大学スポーツ協会【UNIVAS】の撮影が入りHPで紹介されている。同団体からの支援として、体温測定器や消毒用アルコールの提供を受けた。
- https://www.univas.jp/project/match_video/shorinji-kenpo/

【6】全自衛隊少林寺拳法大会【オンライン実施】

- 1 期 日 2022年5月16日配信
- 2 場 所 関係者にオンラインで限定公開
- 3 目 的 自衛隊少林寺拳法部所属の会員が日頃の修練の成果を発表し、共に学びあう。
- 4 主 催 全自衛隊少林寺拳法連盟
- 5 対 象 自衛隊支部所属の現役個人会員
- 6 そ の 他 一財連盟の関わる事業として以下を支援した。
- (1) 本大会に向けての会長動画メッセージの送付
- 7 総括 コロナ禍や海外情勢などもあり、集合型の大会を開催することができず、昨年度に引き続きオンライン大会（動画審査）となった。オンラインの長所を活かすことで、勤務地や勤務形態の異なる拳士が、それぞれの勤務地に居ながらにして参加することができた。
- また会長メッセージにおいても事前に動画撮影をして、配信を行った。
- 今後も状況に応じては、オンライン大会を継続することもありえるため、ノウハウを重ねていきたい。

【7】全日本実業団少林寺拳法大会（全日本実業団連盟設立50周年記念）【延期】

- 1 期 日 2021年11月21日（日）
- 2 場 所 ベイコム総合体育館（兵庫県尼崎市）
- 3 目 的 実業団少林寺拳法部所属の会員が日頃の修練の成果を発表し、共に学びあう。
- 4 主 催 全日本実業団少林寺拳法連盟
- 5 対 象 実業団支部所属の会員
- 6 そ の 他 一財連盟の関わる事業として以下を支援する。
- (1) 実業団拳士の活性化
- (2) 全日本実業団少林寺拳法連盟のPR（高校生、大学生拳士に対して）

【8】各種大会

- 1 期 日 2021年 4月 ～ 2022年 3月
各地区連盟、学生連盟大会等を開催した。

【9】各地区学生少林寺拳法連盟合宿【中止】

- 1 期 日 2021年 4月 ～ 2022年 3月
2 目 的 各地区における連携の強化
必要に応じて当連盟職員、学生指導員が指導に伺い、各地区の活性化を図る。また各地区における指導体制、各大学同士の協力体制を確立する。
3 対 象 各地区の大学少林寺拳法部所属の現役個人会員

【10】少林寺拳法オンライン講習会

- 1 期 日 (前期) 2021年 5月 7日 ～ 2021年9月30日
(後期) 2021年12月10日 ～ 2022年3月31日
2 目 的 コロナ禍において、オンラインを通じて少林寺拳法の魅力や楽しさ、そして元気を取り戻せるような内容を届ける。
3 テーマ 拳理探究 ～技術から「生き方」を学ぶ～
4 仕 様 オンライン配信(リアルタイムではなく、事前に撮影した編集動画を配信)
5 受講者 (前期) 356名 配信回数/週1回(全24回)
(後期) 532名 配信回数/週1回(全17回)
6 主 催 一般財団法人少林寺拳法連盟(東京事務所)
7 講 師 (東京) 井上 弘、(香川) 川島一浩、志村 力、荒井章士
8 受講対象 北海道から沖縄県までの中学生以上の現役個人会員(資格不問)
9 総 括 2020年に実施した「拳理体感」に続くテーマ「拳理探究」。
“新手一生”を目標にして、拳理をさらに模索、探究するべく、基本から法形そして応用、変化に繋げ、技術から思想、生き方へ広げていく内容をオンラインを通じて実施した。
前講習会同様、毎回、動画に加えて、参考テキスト・アンケートを配信。
受講者からの質問、意見、要望にも対応しながら、2021年度は前期、後期と実施した。

【11】少林寺拳法オンライン・ライブ講習会

- 1 期 日 (10月度) 2021年10月31日(日) 13:30～ 参加者50名
(12月度) 2021年12月19日(日) 13:30～ 参加者38名
(1月度) 2022年 1月30日(日) ※コロナ感染防止の為開催中止
(2月度) 2022年 2月23日(水祝) 13:30～参加者77名
(3月度) 2022年 3月20日(日) 13:30～ 参加者59名
2 目 的 コロナ禍において、オンライン(ライブ配信)を通じて、修練に対する意欲向上と同志的連帯感の高揚を目指す
3 仕 様 オンライン(ライブ配信) / 全国のオンライン参加者と道場参加者がリアルタイムにて同時に修練を行う
4 参 加 者 北海道から沖縄県までの中学生以上の会員
5 主 催 一般財団法人少林寺拳法連盟(東京事務所)

- | | | |
|---|-----|---|
| 6 | 講 師 | 井上 弘、志村 力、荒井章士、村瀬晃啓 |
| 7 | 総 括 | <p>事前に撮影した編集動画を配信する「オンライン講習会」とは異なり、参加者とリアルタイムで少林寺拳法の技術、教えを共有した。</p> <p>コロナ禍においても、北海道から沖縄までの指導者と拳士がオンラインを通じて一堂に会し、修練を継続することの大切さを再確認した。</p> <p>実施後、オンライン・ライブ修練で実施した内容を、集合型で実施してほしいという依頼が出ており、次年度に実施していく予定である。</p> |

4. 会員の承認及び会員に対する指導・助言

【1】理事長研修会

- | | | |
|---|-------|--|
| 1 | 目 的 | 都道府県連盟・各連盟の理事長の使命と立場の確認、及び、一財連盟との関係強化を図り、組織として統一のとれた活動による振興普及を目指す体制づくりを行う。 |
| 2 | 対 象 | 都道府県連盟・各連盟理事長 |
| 3 | 対 象 者 | 11名 |
| 4 | 内 容 | 都道府県連盟・各連盟理事長としての使命と役割、運営の在り方、事務要領について事前レポート審査を実施した。 |

5. 少林寺拳法の技術指導・学科指導、指導技術に関する調査・研究

指導者の指導力向上のため、技術指導、学科指導、指導技術の向上を目指した。

- 1 教材・指導書・技術DVD等の企画・制作
- 2 新型防具（胴）・技術上達のための道具の開発
- 3 拳士の立合評価法技術の向上のための修練法の展開
- 4 立合評価法競技、審判員の育成及び普及活動
- 5 立合評価法・運用法の修練法、指導法に関する資料・DVDの企画・製作
- 6 指導技術、その他必要な事項に関する調査、研究

6. 少林寺拳法に関する機関紙及び図書等の発行

【1】少林寺拳法普及の機会を広げ、支援・協力者（団体）の増加に向けて

少林寺拳法の広報活動推進を積極的に図り、関係団体の拡張及び協力体制の強化に努めた。

- 1 各種イベントへの積極的参加
- 2 地元（香川県）での足固めを強固に行い、各方面との結びつきを強めた。
- 3 当法人の活動行事等に対して、マスコミ取材への協力及び有効活用を図った。
- 4 普及活動に繋がる見学・表敬訪問・研修等各種団体の受入れを行った。
- 5 賛助会員の拡大を図った。

本年度においても、これらの重点課題を引き続き取り組むとともに、広報課とともに広報活動、並びに後援者・企業の増加に向けて取り組んでいく。

【2】出版その他

一般財団法人少林寺拳法連盟から発信される情報を正しく会員に知らせ、少林寺拳法に対する正しい理解と普及を図るために次の活動を展開した。

1 『会報少林寺拳法』の刊行（年4回の季刊発行）

- （1）拳士の声を広く集め誌面に活かし、会員全体で誌面を創りあげていく。
- （2）読者がワクワクする仕掛けづくりを行う。
- （3）より多くの拳士にスポットを当てていく。
- （4）指導者間で共有できる事例を取り上げていく。
- （5）多角的に情報を発信していく。

2 一財連盟ホームページの運営

- （1）見やすいホームページの作成を計画。（検討中）
- （2）閲覧者増加を図った。
⇒会報などとのタイアップ等。

3 Facebook の運営

新鮮な情報を提供していくと同時に、各種行事のPRも行った。

4 他団体、他誌について

公益財団法人 日本武道館より発行されている月刊「武道」において、長期連載企画である「少林寺拳法-その歴史と技法-」が2021年6月号から連載開始となった。
全25回に渡り、歴史的変遷と技法を紹介している。

出版広報については現代において非常に重要な施策であるため、上述事項以外にも、実施の可能性を模索し、時代に即した内容で発信していく。

7. 青少年教育関係諸団体及び武道、スポーツ団体との交流

【1】関係諸団体との連携

公益財団法人日本武道館、日本武道協議会、日本武道学会、ボーイスカウト育成会、少林寺拳法振興議員連盟、公益財団法人日本スポーツ協会等については、一財連盟の目的に沿った関係構築が必要であり、常に検証を行ってゆく。

（公財）日本武道館、日本武道協議会については既に関係性が築かれており、会議、事業等、コロナ禍で実施できた内容が多くあった。今後も引き続き関係を強化していく。

日本武道学会については、9月に開催された第54回大会にて、少林寺拳法介護技術をオンラインにて発表した。

少林寺拳法振興議員連盟に関しては、コロナ禍の影響もあり、総会を開催することができなかった。次年度に開催予定である。

（公財）日本スポーツ協会については、ガバナンスコードについて、正加盟団体の立場から求められている事項が多くあり、当法人の目的に沿った内容で対応を進めている。

【2】地域社会での協力

各地域において関係諸団体との協力連携を図る。宗道臣デーや各種行事を通じて積極的な交流促進を図る。但し、コロナ禍における協力体制構築については、各自治体の意向、判断を優

先して実施していく。

主な活動として、当法人の所在する香川県においては、地元の団体にメンバーとして参加するなど活動を継続している。当法人が加盟する少林寺拳法グループにおいて、多度津町に伝承されている多度津京極八幡太鼓を基として多度津京極少林寺拳法太鼓として活動しており、当法人職員もメンバーとして活動している。様々な催し事や施設見学受入れ等で披露している。

東京事務所が所在する豊島区大塚においては、地元の大塚北口商栄会が主催する、大塚駅前環境浄化パトロール、コロナプレミア付商品券の発売・換金業務等の活動に支援協力を行った。

8. その他、当法人の目的を達成するために必要な事業

【1】鏡開き・稽古始め【中止】

- | | | |
|---|------|--|
| 1 | 期 日 | 2022年 1月 9日（日）連盟本部 |
| 2 | 目 的 | 新年度の活動方針を確認し、新年を祝う。
幅広い年齢・拳士が一同に会して、新年の誓いを確認し合う場とする。
拳士参加型のプログラムを実施することで、本部での思い出づくりと、今後も目標確立の場とする。 |
| 3 | 対 象 | 本部委員、支部長、監督、会員、来賓、その他関係者 |
| 4 | 内 容 | (1) 会長年頭挨拶
(2) 式典、稽古始め、少林寺拳法演武披露、演武会、その他催し物
(3) 会員代表者（各年代層）による新年の抱負 |
| 5 | 代替実施 | 会長の新春挨拶を映像で配信 |
| 6 | 総 括 | 新型コロナウイルス感染症拡大に鑑み、中止とした。
2年連続の中止であり、本行事とともに実施する表彰式も中止となった。
今後も集合型での行事が再開されたとしても、オンラインを併用してのライブ配信ということは有用であるため、実施を検討していく。 |

【2】宗道臣デー（月間）

- | | | |
|---|-----|---|
| 1 | 期 間 | 2021年 5月（強化月間）～（基本年度内通年） |
| 2 | 内 容 | 少林寺拳法の理念を、実践を通じて学び取ることを目的として、地域の状況に応じた社会奉仕活動を全国的に展開する。少林寺拳法が社会の中で「自他共楽」を実践していこうという社会貢献活動であり、組織体としての大きな活動でもある。
具体的活動内容は、支部・少林寺拳法部・県連等の活動団体単位で検討する。（地域清掃、慰問等、所属によって様々）
昨年度と同様に本年度においても、新型コロナウイルスの影響により各地域で自粛が続き、連盟本部への活動報告は無かった。
（各所属で活動している様子は見られる） |

【3】危機管理・安全管理の充実

一財連盟の活動における阻害要因となるトラブル等を未然に防止するために、各種研修会、講習会などを活用し、指導者に対して事例を交えながら未然防止、発生後の対応などを学んでもらう。

近年発生している事案として、指導者と保護者、指導者と学生（生徒）部員とのトラブルが挙げられる。その多くが現代にそぐわない指導法やコミュニケーション不足が起因しているため、指導者の常識更新を図り、コンプライアンス、ガバナンスの徹底を図っていく。

各連盟内において対応可能なものについては、その対応をお願いするとともに、各連盟内での体制づくりをお願いしていく。

また、一財連盟職員に対しても機会講習を行い、情報共有とともにトラブル発生時の初期対応ができるレベルになるよう進めていく。

<報告>

2021年度も運営指導案件について複数の上申を受けた。その大半が所属長、指導者によるものであり、所属拳士に対しての各種ハラスメントであった。

ここ数年各種研修会等を通して、ハラスメント撲滅ということで他団体を含めた各事例を紹介し、その未然防止、リスクマネジメントについて伝達してきたが、まだ他人事として認識している指導者が多いことが伺える。ただ、これらについては、発生した各連盟内における対応もお願いし、各連盟一部執行部と本部とで問題解決を図ることができており、その点については、各連盟内での対応力が上がってきていると思われる。

引き続き各種研修会、講習会等において暴力、体罰、各種ハラスメント、ドーピング撲滅、スポーツ指導者の資質向上に向けた取り組みを徹底していく。加えて本部職員への伝達研修も実施し、事務局の知識・対応の向上を図る。

安全管理においては、全国中学生少林寺拳法大会が中止になったことによる総括において、今後の全国規模の大会においては危機管理機関を設置することになった。（詳細は、3.各種大会【4】全国中学生少林寺拳法大会 に記載）

2022年度に実施される全国規模の大会においては、危機管理機関を設け、万が一に備えていく。

【4】日中交流及び国際交流事業

少林寺拳法グループが日中国交正常化以来継続してきた日中交流事業を一層促進し、特に人材育成と人的交流に力を入れた活動を展開する。

1 訪中団派遣

新型コロナウイルスの防疫のための国際間の人的往来と交流の制限により実施無し。

2 国内外の友好交流団体や個人との交流

「日中青年オンライン交流」実施

- ・2021年9月11日、日本側からは主に2019年の学生訪中団参加経験者の有志が、中国側からは鄭州大学の日本語学科の学生が夫々12名ずつ計24名が参加し、身近なテーマに沿ってオンラインで交流した。

【5】理事会

（2021年）

5月22日（土）

①2020年度事業報告（案）について

②2020年度決算書（案）について

8月20日（金）（オンライン）

第15回全国中学生大会中止対応について
8月31日（火）（オンライン）

第15回全国中学生大会中止対応について
9月4日（土）（オンライン）

第15回全国中学生大会中止対応について
9月25日（土）（オンライン）

- ①資産運用報告（2021年8月末）
- ②第15回全国中学生少林寺拳法大会報告
- ③2021年少林寺拳法全国大会 in Tokyo 報告
- ④財務関係現状報告
- ⑤2021年事業報告（中間）
- ⑥一般財団法人少林寺拳法連盟の中期方針について

（2022年）

2月26日（土）

- ①顧問・参与について
- ②評議員選定委員の承認について
- ③評議員候補者の推薦について
- ④ガバナンスコード（原則2）に関する整備計画について
- ⑤会報の改革について
- ⑥2023年世界大会について

3月12日（土）

- ①少林寺拳法連携協議会委員総会の総括と当法人の技芸教授業問題および非営利徹底に対する基本姿勢
- ②2022年度事業計画（案）について
- ③2024年全国大会主管連盟について

3月22日（火）（書面決議）

- ①2021年度補正予算書（案）について
- ②2022年度事業計画（案）について
- ③2022年度収支予算書（案）について

【6】評議員会

（2021年）

6月19日（土）

- ①2020年度事業報告書の承認について
- ②2020年度決算書の承認について

【7】都道府県連盟・各連盟理事長会議

- | | | |
|---|-----|---|
| 1 | 期 日 | 2021年 4月18日（日）オンライン会議 東日本、西日本
2021年10月24日（日）オンライン会議 東日本、西日本 |
| 2 | 目 的 | 「会長の意思、組織の決定事項等の伝達、各連盟間の意思疎通、情報交換の場」「各連盟からの意見・情報収集の場」とした会議を行った。 |
| 3 | 対 象 | 都道府県連盟・各連盟理事長 |
| 4 | 内 容 | （1）議題審議 |

(2) 連絡・報告事項

(3) その他

【8】少林寺拳法の知的財産の保護に関する事業

- 1 各種研修会、講習会、合宿における VALUE-LEVEL-UP の講義
- 2 都道府県連盟・各連盟の VALUE-LEVEL-UP 推進委員との指導、連携
- 3 近年の SNS 利用者増加による無秩序を防ぐため、オンライン配信などを活用した一般拳士に対する VALUE-LEVEL-UP の講義

【9】事業課活動の拡充

- ・キャッシュレス決済の導入に取り組んだ。
- ・新商品の開発
お勉強袋・ちょこっとパック・こんなにパック・何だろっパック、福袋等
東京オンライン講習会 記念グッズ販売（予約販売）Tシャツ・タオル
拳理体感DVD剛法編、拳理体感DVD剛法編Ⅱ
2022年度 カレンダー PROJECT企画（2021年予約販売）